

四海波しかいなみ
(本宮三香もとみやさんこう)

短歌

結むすばれし縁えにしの深ふかさ千代ちよまでも

松まつの緑みどりの尽つくる日ひはなし

四海波しかいなみ

恬しずかにして

瑞色ずいしよく 披ひらく

相生あいおいの

松まつは

茂しげりて

枝えだを

鳴ならさず

高砂たかさこの

一曲いっきよく

喜よろび

極きわまり

無なし

契ちぎりは

固かたし

三三三

九度くどの

卮さかずき

四海波括瑞色披

相生松茂不鳴枝

高砂一曲喜無極

笑酌三々九度卮

解説 夫婦になる事を祝った詩。

語釈 ※四海波Ⅱ謡曲「高砂」の一節、波風がおさまって天下

国家が平和なことを祝う物。※瑞色Ⅱめでたいこと。

※相生松Ⅱ雌株・雄株の二本の松が一つ根から寄り添って生え

る。松は永遠や長寿を象徴することから、相生の松は特に縁結

びや和合、長寿の象徴とされる。※高砂Ⅱ謡曲。世阿彌作。

古名「相生松」。肥後国阿蘇の宮の神主友成が、高砂の浦で景

色をながめていると、老人夫婦がやってきて、友成に高砂と住

吉の二本の松を相生の松といういわれや松のめでたいことなど

を語ったという。※三三九度Ⅱ婚礼の席上、新郎新婦が交わす

夫婦杯。これで夫婦契りがなつたとしたのである。

通釈 天地四方しずかにめでたく開け、相生の松はみどり濃く

風一つ無い佳い日である。高砂の謡をうたい収めると、新郎新

婦は三々九度の杯を酌み、夫婦の契りを結び終った。誠にお目

出たいことである。